

JGAP認証農場の視察報告

静岡県立浜松湖北高等学校
教諭 山崎正訓、福田純平

1 視察目的

平成30年公示の学習指導要領の農業編において、安全・安心な食料の持続的な生産と供給に対応した学習の一層充実が謳われており、農業生産工程管理（GAP）や危害分析・重要管理点方式（HACCP）などに取り組む必要がある。本校では、2019年度にみかんでJGAP認証を取得しており、安全・安心な農産物の生産に取り組み始めた。今回の視察では、校外で行われているGAPへの取り組みを視察することで、GAPに関する知識・技術を高め、授業においてより良いGAPの学習につなげることを目的に視察を行った。

※申請当初は、GAP認証農産物の流通について東京都の施設の視察を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染防止の観点から県内のJGAP認証農場の視察に変更した。

2 静岡農業高校JGAP認証公開審査会の視察

12月22日に、静岡県立静岡農業高等学校で行われたJGAP認証公開審査会の視察を行った。静岡農業高校では、2019年度にみかんや梅でJGAP認証を取得しており、GAPへの学習も積極的に取り組んでいる。今回は、その認証時に定めた規則に則って農場運営ができているか確認する維持審査が行われた。

審査では、3年生の生徒が中心になり、審査の対応をしていた。（図1、図2）審査会を見学する中で、特に参考にしたいと思ったことが、生徒に役割をしっかりと与えて取りませることである。静岡農業高校では、多数いる生徒を「商品管理班」や「圃場整備班」などのようにいくつかの小集団に区切り、各集団の役割を明確にして実習に取り組んでいた。各集団が分担して取り組むことで、効率的な農場運営ができるとともに、生徒が目的を持って授業に臨むことができると感じた。また、審査員と生徒とのやり取りを聞く中で、授業に取り入れたいと思ったことが「農業に関わる法律の学習」や「熱中症対策を含めた労働安全の学習」である。どちらの内容も、現状では授業を行う際に少しは触れる程度であるため、今後は法律や労働安全の学習に時間を使い、より安全・安心な農産物の生産を目指していきたい。今回の視察で、他校での活動内容を知ることができたとともに、今後の本校の農場で取り組みたいことを明確にすることができた。



図1 書類審査の様子



図2 現地審査の様子

3 株式会社鈴生の視察

1月9日に、株式会社モスファームすずなりの農場視察を行った。この農場は、2014年に磐田市に設立された会社で、モスバーガーに安定的にレタスを供給するとともに、地域の耕作放棄地の解消を目的に栽培を開始した。大手外食チェーンであるモスバーガーを中心に、他の外食チェーン等に安全な農産物を提供するために、JGAP認証に基づいた農場運営を行っている。

視察当日は、株式会社鈴生人財部長の松本様に農場について説明をしていただいた。最初に、磐田市にある同社の集出荷調整施設を案内していただいた。施設内には、作業で使用する乗用の防除機や荷役用のフォークリフト、圃場管理で使用する刈り払い機等の道具が多数あったが、どれもきれいに整頓されていた。従業員同士で、どのようにしたらきれいに整理整頓ができ、尚且つ使いやすいかを話し合いながら日々改善しているとのことだった。また、整理整頓をする際には、いかに経費をかけずに工夫して整理整頓できるかが重要であり、この会社ではそのような経営センスも求められることを感じた。そして、この農場では圃場が36カ所に分散しており、それぞれの圃場で栽培状況が異なる。通常の農場では、責任者のみが栽培に関する全ての情報を把握しており、他の従業員は単純に言われた作業を行うだけになり、仕事に対するやる気が低下しやすい。その対策として、全ての圃場の栽培状況を一覧にして施設内の壁面に掲示することで、従業員が状況を把握し考えて作業を行える環境づくりをしていた。(図3)

施設での説明後、生産圃場を視察した。その圃場では結球レタスを栽培しており、生産へのこだわりについて説明を受けた。(図4)特に印象的だったことが、必要なことには手間をかけるということである。レタスのビニールトンネルを設置する際、固定する杭がしっかり打ち込まれているか確認したり、ビニールマルチを厳重に固定したりしていた。一見すると手間に思えるが、突風によりビニールが剥がれてしまうと、その復旧作業の方が、手間がかかると教えていただいた。後のリスクを想定し、その対策をすることで、トータルの手間やコストを削減しようとする姿勢が伺えた。また、作業をする際に複数人で作業をすると、1人でやるよりも作業効率が上がり早く終わることができると仰っており、収益向上への取り組みを常に意識していると感じた。

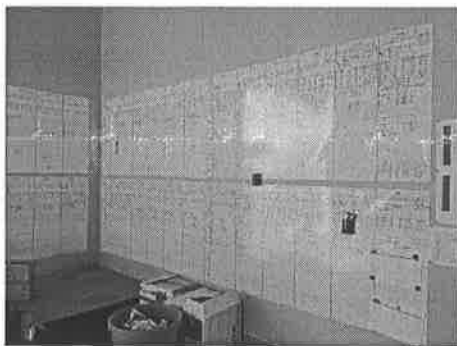


図3 壁面の栽培状況一覧表



図4 圃場での説明の様子

4 まとめ

今回、2か所の農場を視察し、JGAP認証農場ならではのことを学ぶことができた。JGAPは認証を取ることが目的ではなく、常に農場の改善を続ける姿勢が大切である。今回の視察で得た経験を授業に生かし、より良い農場運営に取り組んでいきたい。